

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年5月27日

認定こども園さくら幼稚園・さくら保育園

1、 教育・保育目標

心身ともに健康な子どもを育む

～つよいからだとただししいころをもったよいこの育成（生きる力の基礎）～

2、 教育・保育の方針

4Hの保育

【頭（HEAD）考える力を育む保育】

【心（HEART）心を育む保育】

【健康（HEALTH）健康な心と身体を育む保育】

【人間関係（HUMAN RELATION）人との関わりを育む保育】

を通して、生きる力の基礎を育成する。

3、 目指す子ども像

◎生き生きと遊ぶ子ども ◎元気な子ども ◎心やさしい子ども

4、 令和6年度重点的に取り組む目標・計画

ア、職員の連携の充実とメンタルヘルス対策

イ、保育内容、保育計画の充実

ウ、職員の安全管理意識の向上

エ、保幼小連携の推進

5、 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
ア	職員の連携の充実	B	・4・5歳児を中心に、若手や中堅職員が主に保育を行い、主任等が指導やフォローに当たる形でのクラス運営を行った。若い先生たちが、自分の保育観ややりたいことを発揮できる体制が取れたことはよかったと思う。主任の先生たちは、新しいことを取り入れていくことの難しさを感じているようだったが、今までの保育体制を見直していくきっかけにはなったように思う。
	メンタルヘルス対策	B	・クラスや学年にこだわらず園全体で保育を行う体制を整えたり行事の見直しを行なったりしたことで、学年会や保育準備などの時間の確保ができた。
			・職員への相談体制を整えたことで、園長や副園長に早めに悩みを相談する職員が増えた。思いを聞いてもらう場があることで、気持ちを整理したり次に向かえたりすることに繋がったように思う。それぞれの職員の立場や状況を思いやれる職員集団作りを今後も行っていきたい。

イ	保育内容、保育計画の充実	C	- 子ども達の実態から、周りの人との関わりを楽しんだり大切にしたりできるようになってほしいと考え、「人との関わりを大切にしながら遊びこめる環境を考える」ことを重点に保育を行っていった。保育者や友達はもちろん、保護者との関わりも大切にしてほしいという思いから、保育参観を「見てもらう」から「一緒に楽しむ」に視点を切り替え、保護者参加型の参観を行っていった。また、マチコミなどを通して、子ども達の日々の様子を発信し保護者にも保育に興味をもってもらうようにした。様々な場面で保育参加をしてもらったことで保護者が子どもと過ごす楽しさを感じる機会が増えてきていると思う。（行事後のアンケートや保護者アンケートなどから）また、保護者との楽しさの共有が、子どもの保育への興味や意欲にもつながったように思う。 - 各指導計画と実際の保育や子ども達の姿の読み取りとのつながりにまだ不十分さがある。日々の記録をより視点をもって書けるよう工夫していきたい。
ウ	職員の安全意識の向上	B	毎月の主任会の中で、各学年からヒヤリハットやインシデントの事例を出してもらい、環境の整備や保育者の対応について考えるようにした。以前に比べると、安全面に意識する姿は増え合ように思うが、園全体の傾向として分析したり問題を改善したりすることについてはまだ十分とは言えない。全職員が日々安全面を意識できるような工夫や話し合いの場を持って行きたい。
ウ	幼保小連携の推進	B	- 推進リーダー、副園長を中心に「架け橋期のカリキュラム」の作成を行った。作成の中で何を視点にカリキュラムに取り入れていくかなどの話し合いも行われながら完成した。今後は実践していきながら見直しを行っていききたい。 - 今年度も白ゆり保育園との交流を行った。他園の同じ年齢の子ども達との交流は、本園の子ども達にとっても楽しみの一つとなったと思う。同じ小学校に行く友達がいることも分かり、就学への期待にもつながった。 - 合同研では、少人数の参加しかできなかったが、お互いの子ども達の様子や連携の大切さなどについて話し合いを深めることができた。 - 年長児と小学生の直接交流が雨天で中止になったり、小学校の先生の保育体験も少数だったりとお互いを知るための直接的な交流の機会が少なかったように思う。小学校側が他の研究などがあると幼保小連携は二の次になってしまう傾向があるので、連携の大切さを伝えながら、できる形で継続していきたい。

A＝達成できた B＝80％程度の達成度 C＝60％程度の達成度 D＝30％程度の達成度

6、 総合的な評価結果

結 果	理 由
B	- 職員全体で保育を行う体制や行事の見直しなども行ってきたことで、業務改善や話し合いの時間の確保などにもつながっている。 - 保護者を巻き込みながらの保育実践を通して、子ども達は保護者と一緒に行う楽しさや園での保育について家庭でも話をしたり再現したりする楽しさを感じているように思う。家庭で共有することが、園での意欲や興味にもつながっているように思う。 - 毎月の情報交換を通して、安全面に対する職員の意識が少しずつ高まっていると感じる。 - 園と学校がお互いの子ども達の様子や育てたい姿を共有しながら「架け橋期のカリキュラ

	ム」作成に向けて取り組むことができた。
--	---------------------

A＝達成できた B＝80％程度の達成度 C＝60％程度の達成度 D＝30％程度の達成度

7、 令和7年度に取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1、	保育内容、保育計画の充実	・ 様々な反省記録を行う際、項目に視点をもたせることで何について記録するのかを分かりやすくしていきたい。その繰り返しの中で、保育者が日々視点をもって保育や評価を行なえるようになってほしい。 ・ 職員同士がお互いの保育についてより深く話し合える機会をもち、資質向上につなげていきたい。
2	保護者支援	・ 取り組みを通して、保護者の子育てに関する悩みを感じることも多かった。7年度も保護者とともに保育を楽しむことを充実させていきながら、保護者同士子育てについて語り合える場の提供や、職員に相談しやすい雰囲気づくりに取り組んでいきたい。
3	安全意識の向上	・ 園内の危険個所などについて掲示し、職員・園児が日々意識をもてるようにしたい。また、保護者の目に触れるところにも掲示することで、保護者にも意識をもってもらい園全体で園児の安全を守れるようにしたい。
4	幼保小連携の推進	・ それぞれの園や学校の事情もあるが、その中でできる方法を工夫しながら連携の継続を行っていきたい。

7、 学校関係者の評価（○よかった点、●改善してほしい点）

○保護者アンケートでは、ほとんどの項目で90％以上の家庭から「満足」「ほぼ満足」という評価をいただいた。 ○子ども達が楽しく過ごせている。色々な活動を通して成長していることを感じる。 ○行事が楽しく、親子で充実した時間を過ごせた。 ○マチコミの導入により、園からのお知らせが分かりやすくなった。また、タイムラインで日々の子どもの様子がリアルタイムで見られるのがよい。 ○担任の先生だけでなく、園全体の先生が子どもの名前や状況を把握して対応してもらえ、信頼できた。 ●保護者ワッペンがなくても園に入れてしまうことがある。 ●一部の先生で、挨拶をしない先生や道路で携帯を触りながら出退勤をしている先生がいる。 ●感染症の情報について玄関に掲示してあるが、感染症だけでなくただの熱休みなどの情報も知らせしてほしい。
--